



2024年世界緑内障週間の患者啓発運動

「ライトアップ in グリーン運動」趣意書

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

日頃は日本緑内障学会の活動にご理解賜り厚く御礼申し上げます。

視覚障害者統計全国調査によれば、日本の「視覚障害」の原因疾患第1位は「緑内障」(28.6%)¹⁾です。また、高齢人口の増加により患者数が増加していると推定されます²⁾。罹患している事に気づかない場合が多く、日本の潜在患者数は医療体制の整備されていない国にも等しく、最多グループにあると報告されています³⁾。緑内障という疾患に関心を持っていただく事は、わが国の緑内障診療の大きな課題と言えます。

緑内障は放置すれば進行し、視覚障害にも達する疾患ですが、一方、治療に使用する薬剤や手術療法などの選択肢が増えており、早期に発見すれば、一生、日常生活に支障の無いレベルに留めることが期待できます。40歳以上の20人に1人は、緑内障に罹患していると報告されています²⁾ので、決して稀な疾患ではありません。緑内障を早く発見するには、目の検診が必須です⁴⁾。また進行させないためには、治療開始後の継続管理が重要です。

日本緑内障学会では、緑内障についての正しい知識を広めることを目的に、毎年3月上旬の世界緑内障週間⁵⁾に、世界の緑内障研究者や患者団体とともに啓発活動を行っています。検診などのイベントのほかに、国内のランドマーク施設や医療機関において、緑内障のシンボルカラーのグリーンにライトアップする運動を展開しています(「ライトアップ in グリーン運動」)。2015年に全国5カ所で開始したこの運動は、多くの医療機関や企業のご協力と、日本眼科学会・日本眼科医会の後援をいただき、2016年は20カ所、2017年は44カ所、2018年は83カ所、2019年は150カ所、2020年は278カ所、2021年は468カ所、2022年は737カ所、そして2023年は1196カ所と大きく運動の輪を拡げてきました。日本発信のこの運動ですが、海外でもグリーンライトアップを開始する国も出てきています。

2024年は、3月10日(日)~16日(土)が世界緑内障週間にあたります。日本緑内障学会は、「ライトアップ in グリーン運動」を通して、より多くの人々に「緑内障」という疾患に関心を持っていただきたいと考えております。「アイフレイル」という言葉があります。「加齢に伴い目が衰えてきた上に、様々な外的ストレスが加わることで目の機能が低下した状態、またそのリスクが高い状態」を言います。緑内障もこうした状態の一つであり、病気について正しく知っていただくことが、眼の健康寿命を延ばすこととなります。

つきましては、本事業の趣旨にご賛同頂き何卒格段のご配慮を賜りますようお願い申し上げます。

2023年9月4日

謹白

日本緑内障学会理事長

相原



1) Morizane et al., JJO 2018. 2) 日本緑内障学会多治見疫学調査報告書, 2012.
3) Soh ZD, et al. Ophthalmology, 2021. 4) Iwase et al., Ophthalmology (Glaucoma), 2021.
5) 世界緑内障週間 <http://www.wgweek.net/>